

# 『一問一答』

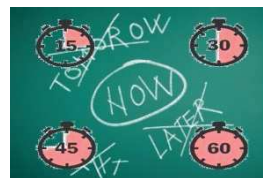
## WEB問題集

### 忙しい あなたの 学習を サポート

問題演習が重要、  
それはわかるけど、  
なかなか時間を取れない…。  
そんな悩みを解決します。

#### ◆気軽なこまぎれ学習でOK！

学習しなくてはとも思っても、ついつい後回しにしてしまうもの。『一問一答』WEB問題集なら、思いついた時に1問から学習OK。もちろん、やる気・空き時間に応じて、とことん取り組むこともできます。



#### ◆繰り返してで実力養成！

ランダム出題の一問一答形式だから、「この問題は5番が正解だったはず」が通用しません！ゲーム感覚で繰り返し取り組んでいくうちに、実力が身につきます。



#### ◆結果が一目瞭然！

解答結果が一覧表示され、どの問題を間違えたか一目瞭然。正答率も表示されるので、モチベーションアップに役立ちます。解説のポップアップ表示機能で、一覧画面から解説を読み返せます。  
※結果を保存する機能はございません



#### ◆タブレットやスマホで スキマ時間でも学習できる！

インターネットに接続できれば、外出中・通勤中のスキマ時間も有効に活用できます！  
机に向かう気が起きないときも、場所を選ばず学習に取り組めます。



URL

<http://www.e-jemai.jp/qualification/webtest/>

# ご利用方法

1 「通信教育受講者サポート」ページへ

2 「一問一答」WEB問題集のアイコンをクリック



3 受講者番号票のID、パスワードを入力

4 TOP画面へ ※受講コースにより表示が異なります



さあ、問題演習を始めましょう！



一般社団法人産業環境管理協会



# 画面のご説明

## TOP画面

『一問一答』WEB

共通・公害総論

- 過去の国家試験の出題などから作成された問題です。
- 出題数は、近年の国家試験での実題の数に準じていますが、出題数がない場合があります。
- ※過去の国家試験での出題が少ないジャンルの問題もご用意しております。

※過去の国家試験での出題が少ないジャンルの問題もご用意しております。

大気関係科目

大気概論 (10問)	開始	出題数
(1)大気汚染防止対策のための法規制	開始	4
(2)大気汚染の現状	開始	0
(3)大気汚染の発生機構	開始	3
(4)大気汚染による影響	開始	2
(5)国又は地方公共団体の大気汚染防止対策	開始	0

ページ先頭へ

Copyright (C) 2012 JEMAI. All Rights Reserved.

お問い合わせ | 個人情報保護方針

全範囲から、  
国家試験と同じ問題数が  
出題されます

いつでも  
中断できます

該当範囲から、  
最大で10問が出題されます

## 出題画面 & 解説画面

汚水処理特論 | 問1

窒素とりんを同時に除去する嫌気・無酸素・好気法について、以下のフロー図は正しいか？

○

1 | 年度: 2017年 | 問番号: 17

選択した答え

選択に対する正誤

結果一覧画面へ

次の問題へ

解答

【出題頻度】低 【出題情報】年度: 2017年 問番号: 17

解答結果 **正解**

生物学的脱りん法についての出題である。生物学的脱りん法は、りんだけを除去する「嫌気・好気活性汚泥法」と、窒素除去機能とりん除去機能を併せ持ち窒素とりんを同時に除去する「嫌気・無酸素・好気法」などが開発されている。（『新・公害防止の技術と法規』III.3.6 (3)）、図III.3.6 (a)～(c)を参照する。

嫌気槽で排水と返送汚泥を接触させると、汚泥中のりんが有機物の存在下で混合液中に溶け出し、好気槽でりんを吸収し、余剰汚泥として系外に取り除く。

好気槽でりんを放出させた後、無酸素槽で窒素とりんを同時に除去する。その後好気槽でりんを吸収させ、無酸素槽で窒素とりんを同時に除去する。その後好気槽でりんを吸収させ、無酸素槽で窒素とりんを同時に除去する。

図1- (b)より、誤り。【答え: ×】

(a) 嫌気・好気活性汚泥法

(b) 嫌気・無酸素・好気法

図1 生物学的脱りん法

止める | 次へ▶



# 結果一覧画面

『一問一答』 WEB演習問題

文字サイズ 大 中 小

解答結果一覧

問題	選択	結果
<p>下記のフローの循環式硝化脱窒法に關し、以下の記述は正しいか？</p> <p>問1</p>	✗	不正解
<p>二次脱窒槽は、残存する亜硝酸、硝酸を除去するために設けられる。</p> <p>問2</p>	✗	不正解
<p>循環式硝化脱窒法の全</p> <p>問3</p>	✗	不正解
<p>循環式硝化脱窒法のフ</p> <p>問4</p>	○	正解
<p>排水を最初に導入する</p> <p>問5</p>	○	正解
<p>【追加解説】 生物学的脱窒法は、相システムに始まり、次が開發された。その後、Eシステムの代表例である硝化槽から循環される硝化成分を利用しながら増殖槽化槽では残存するBODが液の大部分が脱窒槽にこの循環比により決まる</p> <p>問6</p>	○	正解
<p>測定項目とその測定に用いられる方法あるいは用語として、以下の組合せは正しいか？</p> <p>問21</p>	✗	不正解
<p>測定項目 全有機体炭素 / 方法あるいは用語 燃焼酸化-紫外線式分析法</p> <p>問22</p>	○	正解
<p>全りんの検定に關する記述中、下線を付した箇所の正誤を問う問題である。</p> <p>問23</p>	○	正解
<p>ベルオキシニトロ酸カリウム分析法では、試料にベルオキシニトロ酸カリウムを加え、(1)60℃の水浴中で加熱して(2)有機物などを分解し、生成した(3)りん酸イオンを(4)モリブデン青吸光光度法で定量し、これを(5)りん濃度で表す。</p> <p>下線部 (5) の記述は正しいか？</p> <p>問24</p>	○	正解
<p>濁度計の測定方式とその特徴として、以下の組合せは正しいか？</p> <p>問25</p>	○	正解
<p>測定方式 透過光方式 / 特徴 試料セルの汚れなどの影響を受けやすい</p> <p>問26</p>	○	正解
<p>酸化還元電位計 (ORP 計) に關し、以下の記述は正しいか？</p> <p>問27</p>	○	正解
<p>ORP は状態を表す指標であり、濃度指標ではない。</p> <p>問28</p>	○	正解
<p>河川や比較的大きい水路などにおける流速計による流量測定に關し、以下の記述は正しいか？</p> <p>問29</p>	○	正解
<p>水路床の状態が良好で、流速計の回転子が十分水没する水深があること。</p>		

正答率 18/25 72%

◀ 一覧へ戻る

[解説] ボタンを押すと、解説画面がポップアップで表示されます。

正答率が出ます

繰り返し取り組んで実力を養成しましょう！



一般社団法人産業環境管理協会